

望月 葵

講師
博士(地域研究)

Aoi Mochizuki

✉ aoi.mochizuki@komatsu-u.ac.jp

研究
Keyword

中東地域研究、政治学、難民研究、イスラーム世界論

プロフィール

2022年 京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程(五年一貫制) 修了

2022年 立命館大学 立命館アジア・日本研究機構 専門研究員

2023年 日本学術振興会 特別研究員

研究分野

中東地域研究、政治学、難民研究

所属学協会

日本中東学会、日本国際政治学会、移民政務学会

人の国際移動からグローバル化時代の
諸問題を考える

専門分野・研究分野

中東地域から世界を展望する

2001年の9.11同時多発テロ事件、イラク戦争、「アラブの春」とその後のシリア内戦の発生、そしてガザ・イスラエル紛争など、中東地域は21世紀の国際社会に多大な影響を及ぼし続けてきた。イスラーム過激派の存在や度重なる紛争、イスラモフォビアの高まりなど、これらは決して中東地域だけにとどまる問題ではない。特に、政治情勢の不安定化、経済状況の悪化は中東からの国内避難民や難民の流出を招いており、国際社会にとって解決すべき大きな課題となっている。現地でのフィールド調査をもとに、地域研究、政治学、難民研究などの様々な研究アプローチを組み合わせることで、中東の抱える政治・経済の諸問題を分析することで、国際社会の実相をより多角的・多面的に明らかにすることをめざしている。

研究内容

グローバル課題としてのシリア難民問題

シリア内戦が2011年に勃発した結果、多くのシリア難民が世界中に離散する結果となった。2022年時点で、約650万人以上のシリア難民と670万人以上の国内避難民が発生しており、これはシリア国民の半数以上が故郷を追われていることを意味する。シリア周辺国のみならず、ヨーロッパなどの国々にも多くのシリア難民が逃れたことで、シリア難民問題は国際社会全体の「難民危機」として注目を集めてきた。シリア難民たちは今なお避難生活を余儀なくされており、受入社会が彼らをどのように包摂または統合していくのか、ということが国際社会の喫緊の課題となっている。シリア難民が受入社会で直面する文化や言語の差異をどのように受け止めて、どのように乗り越えているのか、彼らの生存基盤の再構築過程を明らかにすることが課題である。

シーズ・地域連携テーマ例

- 中東地域の政治問題
- 日本の多文化共生社会
- ムスリムと受入社会

論文

- 「欧州難民危機以降の国民国家体制のレジリエンス——西欧諸国におけるシリア難民に対する移民・難民政策のゆらぎ」, 望月葵, イスラーム地域研究, 14, 228-244, 2021.

書籍等出版物

- 「グローバル課題としての難民再定住：異国にわたったシリア難民の帰属と生存基盤から考える」, 望月葵, ナカニシヤ出版, 2023.

講演・口頭発表等

- 「欧州の移民・難民コミュニティの存立基盤とシリア難民問題」, 望月葵, 日本中東学会第38回年次大会, 2022年5月15日.
- "Will Japan Contribute to Syrian Refugees' Resettlement? Reflections on Japan's Middle East Policies and Refugee Acceptance," Mochizuki Aoi, BRISMES 2023 Conference, July 4th, 2023.
- "Prospects for Inclusion of Immigrants and Refugees: The Case of Japan with Special Consideration of its "Cultural Coexistence", Aoi Mochizuki, The Migration Conference 2023, August 24th, 2023.
- 「難民のセキュリティセッション：地中海域・中東をめぐる国境管理と「域外地域」構築の動向」, 望月葵, 日本国際政治学会2023年研究大会, 2023年11月11日.

競争的資金等の研究課題

- 「ポスト・コロナ期の多文化共生の課題と難民・避難民の再定住：離散シリア難民を事例に」, 日本学術振興会, 研究活動スタート支援, 2022年8月ー2024年3月.



写真1. ヨルダン首都アンマンの様子



写真2. キング・アブドゥッラー・モスク(ヨルダン)